

岡山聾学校で安全に楽しみながら 礼法と基本を重視した空手道授業を実施

令和 7 年度中学校武道授業（空手道）指導法研究事業（授業視察）



令和 7 年度中学校武道授業（空手道）指導法研究事業（主催＝日本武道館・全日本空手道連盟・日本武道協議会、後援＝スポーツ庁）が 12 月 8 日、研究者 5 名、事務局 3 名が出席して岡山県立岡山聾学校（岡山県岡山市）で行われ、同校中等部および高等部 20 名に対して空手道授業を行い、研究協議を実施した。

授業では太田熊野研究者を中心として、11 月に行われた東京 2025 デフリンピック男子個人形優勝の森健司研究者等が生徒をサポート。太田研究者のかけ声を同校教諭が手話に訳しながら、基本動作の確認をしたのちにグループごとに分かれて形の練習を行った。生徒達は安全に楽しみながら取り組み、大きなかけ声や互いに教えあう様子も見受けられた。授業の最後には全員で基本形一を披露。わずか 2 時間の授業にもかかわらず、その完成度は高く会場は大きな拍手で包まれた。

◇出席者一覧

研究者：太田 熊野（富山県立しらとり支援学校・教諭）

小山 正辰（全日本空手道連盟 学校武道推進委員会 委員長）

森 健司（立命館大学 空手道部 3 回生）

野中 史子（全日本空手道連盟 学校武道推進委員会 副委員長、高知市立旭中学校・主幹教諭）

山本 史子（佐賀県立中原特別支援学校・教諭）

事務局：日下 修次（全日本空手道連盟 学校武道推進委員会 相談役）

高橋 昇（全日本空手道連盟 学校武道推進委員会 委員）

田邊 礼子（全日本空手道連盟 指導普及課）

授業の様子



礼法、左座右起を説明



基本動作の確認



森研究者による、
決勝を制した形「アーナン」



床に貼った2色のテープで足の動きを
把握する



グループごとに練習



全員で基本形一を披露

研究協議



現場への理解を深めるためのグループ協議



山本研究者の実践報告